
令和4年度 第3回練馬区子ども・子育て会議議事録

[日 時]

令和5年3月14日(火)午後6時30分から午後8時まで

[会 場]

練馬区役所本庁舎5階庁議室

[出席者]

斎藤委員、熊谷委員、仙波委員、檜垣委員、吉田委員、小池委員、梅澤委員、田中委員、土田委員、戸田委員、森山委員、小櫃委員、藤岡委員、尾形委員

(事務局)

教育長、こども家庭部長、こども施策企画課長、子育て支援課長、保育課長、保育計画調整課長、青少年課長、子ども家庭支援センター所長、学務課長

[欠席者]

鈴木委員

[傍聴者]

1名

[次第]

- 1 新設私立認可保育所の利用定員の設定に係る意見聴取について
- 2 第2期練馬区子ども・子育て支援事業計画中間見直し(案)について
- 3 その他

- 【会 長】 令和4年度第3回練馬区子ども・子育て会議を開催いたします。
本日も前回同様、新型コロナウイルス感染拡大防止の対応中であることを考慮して会議運営を行いたいと思います。円滑な運営にご協力をお願いいたします。
本日は今期最後の会議となります。会議終盤に、委員の皆様からこの2年間を振り返ったご意見を頂戴する場を設けたいと思っております。
初めに、配付資料および委員の出席状況について報告をお願いします。
- 【事 務 局】 (配布資料の確認)
本日の出席状況についてご報告させていただきます。本日の出席者は、委員15名中、出席委員が14名となっております。委員過半数の出席を得ておりますので、会議は有効に成立しております。
- 【会 長】 ありがとうございます。本日は今期最後の会議ということで、教育長が見えられております。まず、初めに堀教育長よりご挨拶を承りたいと思います。よろしくお願ひいたします。
- 【教 育 長】 お忙しい中、委員を務めていただきありがとうございます。
委員の皆様方の任期は2年でございますが、それ以前から委員を務めていただいている方々もおられます。子ども・子育て会議は、ちょうど10年前の平成25年9月に発足し今回の会議が5期目の締めくくりになりました。当時は、保育所待機児童対策などが喫緊の課題でした。その中で、この会議の皆様方のご意見を頂戴しながら施策を進めて参りました。私も1期目から3期目の半ばまで、こども家庭部長として構成員を務めさせていただきました。この間本当に様々なご議論、ご提言をいただいたことに深く感謝を申し上げます。
昨年の国内の出生数は初めて80万人を下回りました。この数字は、国としては恐らく10年近く後に訪れるであろうと思っていた数字ですが、現状として出現してしまいました。練馬区の合計特殊出生率も1.06と非常に課題となる数値となりました。私どもは、これらを踏まえて、従前にも増して子育て支援に取り組まなければならないと思っております。
今回が今期最後の会議となりますが、これまでの間ご尽力いただきました委員の皆様方に厚く御礼を申し上げるとともに、私どもとしては皆様方のご意見等を活かして、さらなる子育て施策に全力で取り組んでまいりたいと考えております。会長はじめ副会長、委員の皆様方に、感謝申し上げます。本当にありがとうございます。本日も、よろしくお願ひいたします。
- 【会 長】 ありがとうございます。堀教育長は本日別の公務が重なっておりますので、これもちまして退席いたします。
それでは、議事に入ります。初めに、次第1「施設私立認可保育所の利用定員の設定に係る意見聴取について」です。資料1が出ております。事務局より説明をお願いします。
- 【事 務 局】 (資料1について説明)
- 【会 長】 ただいまの説明についてご質問、ご意見いただければと思います。
- 【委 員】 前回の会議でも発言しましたが、恐らく区内の私立幼稚園の令和5年度の新入園児は各園とも大幅に減少し、利用定員の募集定員に対する充足率は平均70%にも

達しない状況です。前回も区から報告がありましたが、保育園を9園整備し定員を拡大することに対して大変な憤りを感じております。それだけは忘れないでいただきたいと思います。

【会 長】 ご意見を承ったところですが、他にいかがでしょうか。

【委 員】 参考資料1について、各ページの予算額が全体の何割を占めるのかなどが類推できる数値の記載もあればいいと思います。絶対額のみですと、足りている、足りていないや、多い、少ないなどが推し量れないと思いますので、それが併記されていればより良いと思います。

【会 長】 この点いかがでしょうか。

【事務局】 参考資料1は、当初予算記者発表資料の中でも、子ども・子育て会議が所管する子育て施策の部分について抜粋したものです。同じ教育委員会の中では、例えば、学校の取組等も参考資料1の後に続いており、最後には性質別や目的別などの全体の予算額のデータが掲載されております。本日はそれらの部分が省略されており、分かりづらい部分があると思います。

少し数字をご紹介します。令和5年度の区の一般会計の歳出全体に占める、保育所の整備や児童館、児童手当といった子育て施策に係る経費である子ども家庭費は750億円余です。これは、区の歳出全体の25.1%に当たります。また、教育費として小学校や幼稚園、図書館などの経費が342億円余であり、11.5%を占めます。教育、子育てを合わせると一般会計の歳出全体の約37%を占めています。

【会 長】 ほかにいかがでしょうか。次第1に関しては、意見聴取をすることとなっております。ただいま皆様のご意見を承ったところでございます。

続きまして、次第2「第2期練馬区子ども・子育て支援事業計画中間見直し(案)について」です。資料2が出ております。事務局よりご説明をお願いいたします。

【事務局】 (資料2の説明)

【会 長】 ただいま事務局から説明があった資料の内容につきましてご意見、ご質問いただければと思います。いかがでしょうか。

【委 員】 資料2-1の4ページ16番に「保育園は20時30分ぐらいまで開いている所もあるのにどうして学童クラブは17時や18時までなのか。」という意見がありますが、幼い子どもが20時30分までの長時間1つの施設にいることは大変大きな問題ではないかと思えます。それよりも、区で対応することは難しいかもしれませんが、子どもの保護者が、特に低年齢児ほど就業時間を短くするなどしていくべきだと思います。

幼児教育の根本では、大きな3本柱として家庭生活と集団生活に加えて地域生活も考えられてきました。幼稚園教育が標準4時間であることは今でも変わりません。これには、1日24時間のうち12時間は睡眠時間や入浴時間などの時間として、残った12時間を家庭生活と集団生活、地域生活に3分割することが子どもの生活において大事だという考えが根本にあります。しかし、保護者と買物に行くことや、一緒に入浴する、食事をする時間などが短くなってきています。また、同じ集団に朝から晩までいることは大変大きなストレスとなります。これは大きな問題なのではないかと思えます。

このような意見が広がることを私は大変危惧しております。やはり区としても、

これから保育時間の短時間化に向けて進めることが本当の意味の子育てだと思っています。子育て会議ではなくて、子預け会議になってきていることが、大変大きな疑問であることを申し上げておきたいと思います。

【会 長】 ありがとうございます。意見を承りました。

【委 員】 今のご意見を受けて私も保育園の立場で申し上げます。

私も保育時間の長時間化は子どもにとって良くないとずっと思ってきました。最近、他の保育園長と20時半まで開園している園でも利用者が減ってきていると話しています。社会で様々な働き方改革が進み、父親の育児参加も増え、長時間保育の利用者も少し減っている気がします。私の園は延長保育の定員が20名ですが、現状は約6名しか利用者がおらず、空いていますとアピールしても利用者が出てこない喜ばしい状況になっています。

長時間で夜遅くまで開けている園を少し整理し、預かり時間の切り上げを早くする取組も良いのではないかと思います。保護者も園の預かり時間に合わせて働くことができる状況になってきている気がします。セーフティーネットとして遅くまで運営する園も若干は必要だと思いますが、多くの場合には必要なくなっているところもある気がするため、検討して欲しいと思います。

もう1つ別の意見ですが、資料2-1の3ページ5番、「公園などが園庭の代わりに認められている」とされています。区の考え方の2行目の終わりから、「保育園では毎日のように散歩に出かけて体を動かしています。」という区の回答が書かれておりますが、これは私立保育園協会でも数年前から重要視している問題の1つです。保育園が非常に増えている中で近隣の公園を園庭の代替として認める制度があり、1つの公園を園庭として利用している保育園が4つ以上ある場合もあります。保育園の子どもが外遊びする時間は、だいたい午前9時から11時の約2時間に限られており、どの保育園も同じ時間帯に来るので利用時間がバッティングし、奪い合いになります。後から行くと混んでいるので、別の近くの公園に移動します。2歳ぐらいまでの小さな子は、1つの公園に行き、混んでいるので遊べず移動してそこでも遊べずそのまま帰ってくるのが日常的に発生しています。

散歩して体を動かしているといっても、散歩は保育の中では非常にリスクが高く、本来業務ではありません。交通事故の危険もあり安全を確保するため、例えば2列で手をつないで歩かせることを強制することや、ひもでつないで引っ張っていることがよくあります。それは子どもにとって物すごく大きなストレスで楽しいことはありません。このような状況が発生してしまっている理由は保育園がたくさんあり、園庭の代替地として公園を認めているからです。このようなことを根本的に見直していかなければなりません。実際にどれくらいの園が同じ公園の利用申請を行っているのかこれから調べて、精査していかなければならないと思います。最近ではコロナでマスクをしていないと公園に入れないこともあり、保育業界では問題になりました。根本的に見直していくべきだと思っています。

【会 長】 ありがとうございます。事務局、どうぞ。

【事務局】 委員から公園の利用に関してお話がありました。まず、区としては園庭の有無は保育園の魅力の1つだと考えています。自宅から預け先への距離、通勤との利便性

等色々ある中で、園庭の有無等も含めて保育園を選択していただいているという認識です。

自園の中に園庭が取れない場合に、代替遊戯場として、水飲み場とトイレの2つがあることを条件に公園を1つ指定することができます。一方で、代替遊技場以外の様々な公園を皆さん利用されています。委員からもありましたが、利用時間が重なった場合はほかの場所へ移動することも地域の状況によって発生していることは十分承知しています。区には公園が多い中で、そうしたご苦勞を現場でもされているというのは承知しております。代替遊戯場は1つだけを指定する制度ですが、指定していない公園に遊びに行ってはならないなどの決まりはございませんので、様々な公園をご利用いただいているという認識です。

【会長】 ありがとうございます。

【委員】 保育時間に関して保護者の立場から意見させていただければと思います。保育時間は、長いほうがセーフティーネットとしても機能しますし、働く母親やシングルマザーなどにとっても現実的には助かるのではないかと思います。私の場合は多子世帯で子どもが複数おり、共働きで核家族です。確かにリモートワークなどが進み、在宅勤務が出来ることもあります。ただ、端末やインターネットさえあれば仕事の案件は24時間来ますので、リモートワークが進んだ結果、仕事量が増えたという保護者も実際には多くいます。このような労働環境もあるため、一概にテレワークだから早く迎えに行けるとは限りません。また、業種にもよりますが、テレワークが進みグローバル化が促進されて、24時間どの時差の人ともコミュニケーションしやすくなりました。物理的に海外出張に行かなくても夕方あるいは朝方にミーティングに出る、インターネットベースでミーティングに参加するというワークスタイルもあります。

様々な保護者を見ている中で、未就学児の子どもがいると仕事に集中できないことがコロナ禍第1波の時に大きな問題にもなりました。学童以降に関しては、子どもが自立的に宿題や友達と遊ぶなどして少しは手が離れるため、個人的には20時半まで預けるニーズは少ないと思います。しかし、未就学児はまだまだ手がかかりますし、それが多子世帯となるとそのような子どもが複数いる状況にもなりますので、今のような開園時間が長めの園があることは大きな救済になると思っています。

【会長】 ありがとうございます。ご意見として承るところでございます。

【委員】 中間見直し(案)に練馬区の合計特殊出生率が1.06%とあります。国の合計特殊出生率約1.33%と比較すると練馬区はかなり低く、低下傾向にあります。また、地方によってはかなり低下している地域があると聞いています。保育園は、待機児童を出さないように随分増えましたが、出生率が下がった時に、保育園の経営が成り立たなくなることを心配しています。保育園が閉園すると、保育が必要な方の行く場所がなくなり、その地域では子どもがいなくなる状況が生じる可能性があります。そこまで極端ではなくとも、経営が成り立たず閉園すると、その近隣の住民の中で子どもを育てようという人がどんどん減って偏在化してしまうことがあると思います。それが加速して出生率も下がり、悪循環になる可能性があります。そこで、これだけ保育園を整備して、経営が成り立たず閉園してしまうことがないように指導をして

もらわないと将来心配だと感じております。

現在、待機児童はゼロですが、だんだんと保育園の定員に空きが出ているとも聞いております。そこで小規模でも、定員が少し減っても経営が成り立つような方策などを区も一緒に考えていただきたいと思います。

【会 長】 練馬区の空き状況の現状や今後の予想はどうでしょうか。

【事務局】 大変難しい課題ですが、区が正面から取り組まなければならない課題だと思っています。まず、出生数の状況はこの計画の中でも示しているとおおり、現状は減っています。一方で、第一子を出産した後の母親が復職する割合は平成27年度から上がっており、多くの方が仕事に戻ります。晩婚化も背景の1つだと思っておりますが、仕事を辞めるのではなく、復職し引き続き仕事をする方の割合も増えていくと見込んでいます。こうした動きは保育ニーズを引き上げる要因になると考えています。働き方が多様化する中で、現在の保育時間が本当に適切か考える必要があると思っております。

民間の保育園、区の運営する保育園、また、地域型や保育ママ、認証保育所など様々な保育施設があるなか、状況を見ながら、大きな余剰を生じない形でどのように管理していくのかが私どもに課せられた責務だと思っています。空きの状況を申し上げますと、認可保育園は昨年4月から現時点までで概ね97%から98%程度埋まっている状態です。少なくとも現状では、地域型保育事業も同じような状況ですので、地方で生じている空き定員の増加により経営が厳しくなるという状況までは至っていないという認識です。

また、テレワークだからといってご自宅で仕事をしながらお子さんを保育できるとは思っておりません。テレワークでも全く同じ勤務時間で算定しておりますので、状況の変化を見極めながら検討を進めていきたいと考えています。

【会 長】 ありがとうございます。

【委 員】 先ほど意見が出た園庭の話です。私も子どもを保育園に2歳まで通わせていました。新しい保育園には園庭がないため、道中は危険ですので言い方は悪いですが、犬の散歩のような状態で近くの公園まで行きます。公園に行くと、不機嫌そうにたばこを吸っている人や飲酒している人がいる場合もあるため、子どもたちも気がつかいながら遊ばなければならないという状況があります。大きな声を出したい、動き回りたいという子どもの衝動を受け止めてくれる場では全くないと思っていました。最近練馬区の公園に、近隣住民からのクレームを受けて24枚もの看板が立っているというニュースがありました。私は、保育園、幼稚園には自由に遊べる園庭が不可欠だと思っています。そういう意味で、新しい保育園を整備するより、幼稚園にもっと練馬こども園になってもらい、広い場所で子どもたちが自由に遊べるようになってほしいと思います。

一方で、今、練馬こども園になっている幼稚園は概ね全体の3分の2です。古くからある幼稚園は、練馬区が田舎だった時代に広い土地を持って運営できたという歴史もあると思います。今は練馬中どこを探しても土地がないような状況なので、古くからある幼稚園には、その広い土地を子どもたちのためにもっと使う、ひいては練馬こども園になってもっと子どもを受け入れるという社会的責任があると思っています。区としては、新しい保育園を整備するより幼稚園が練馬こども園になり、

社会的責任を果たせるような補助金の使い方や、人のコーディネーターなどにより力を入れてほしいと思っています。

【会長】 ありがとうございます。

【委員】 長時間保育に関して保護者の立場から述べさせてください。

私も長時間子どもを預けており大変心苦しいです。保育園の時間に合わせて預けることができれば、もちろん良いことだと思います。しかし、全ての人が9時から17時で働いているわけではありません。10時出勤で20時に帰宅してくるような働き方もあります。私は看護師で夜勤もあり夜中に働かなければならないという状況を抱えながら子育てをしています。また、保育園などの預け時間に合わせるために、時短を取っている方も多くいると思いますが、その方々は減給になり無給になっています。例えば、2時間時短を取ればそのまま2割引になります。それはボーナスも同じです。現在、物価も高騰し夫婦の合算で収入がそこまで高くない世帯は、時短を取るにしても子育てを続ける上で家計を回すことを考えなければならないと思っています。このような経済的な問題を抱えながら2人目、3人目を産みたいと思えるか、産んでやっていけると思えるかというところを区には考えて欲しいです。もちろん保育園のサービスを充実していただいて何とかやっていける状況ではありますが、このようなニーズもあることはここでお伝えしておきたいと思いました。

もう1点、中間見直し（素案）への意見募集についてですが、意見数が28件というのは非常に少ないと感じました。私の周りでも恐らくこの調査を知って応募しようと思った方はいないのではないかという数字です。子育て世代の母親同士で話していても、区に話を上げていく方法があることを知っている方は少ないと思います。自分たちの声が少しでも区の政策に関わることを示していただけるような周知方法を次回は考えて欲しいと思います。

【事務局】 意見数が少ないというご意見をいただきました。意見数が20名の方から28件ということで、確かに少ない数でございます。区としては、今回の意見募集について資料2-1に記載している区報やホームページに併せ、記載はございませんが区の公式ツイッターや子ども家庭支援センターのツイッター、区の公式LINEなど様々な方法を使って周知しておりました。しかし、それでも意見数が少ないため、広く区内の方に周知し様々な意見をいただけるように、今後工夫したいと考えております。

【会長】 ありがとうございます。

【委員】 先日、日曜日に2番目の娘が3人目の子どもを産みました。長女にも3人子どもがおり、長女も次女も退職して子育てをしています。彼女達は子育ては今しかない、働くのはそれからでも良いのではないかと考えて家庭を築いています。しかし、3人の子どもを育てるにはお金がかかるので、2人とも将来が不安でスキルアップをするために通信教育などを頑張っていると聞きました。

私の学童クラブは、民間のため長期休みは8時から19時までやっております。19時になると子どもたちはへとへとになって大人しくなるか、どうしてもなくハイテンションになり騒ぎ始めます。その後家に帰り、御飯を食べて寝るとなると、親と話す機会がないのではないかと思います。しかし、看護師などをしていると、20時半や21時まで預かってほしい、何なら夜間も預かってほしいというニーズもある

と思います。民間なので様々なニーズに応えるためただ預かるだけではなく、子どもの経験を増やせるように、幼稚園に併設している学童なので幼稚園の敷地内でピアノ、バレエ、チア、英語、習字などをやっていくようになりました。ただ、子どもたちが1番大好きなのは園庭で遊ぶことです。先日から、幼稚園の延長保育の子どもと学童の子どもと一緒に遊ぶようになりました。うちの学童は第1子と1人っ子が多く、兄弟関係がない中、小さい子と遊ぶことは非常にいい経験になりますし、学童では見られない様子を見ることができます。また、幼稚園の先生たちも、幼稚園では見ることができない子どもたちの様子を見ることができてすごく良いと言っていました。私はその様子を見てこれが公園のあるべき姿だと思いました。小さい子に気を遣いながら鬼ごっこやサッカーをして、思いやりや、転んだら誰かが助けてくれる、何か教えてくれるような姿が本当によく見えました。今後もそういう関わりを幼稚園とはしようと思っています。

今、ねりっこクラブや、民間、公設民営の学童が増えていますが、そこにいる職員からはトラブルが起きないように、学校との関係が悪くならないように、見守ることから見張りに変化しており切ないと聞いています。また、子どもを預かり見守るのではなく、保護者に代わって子どもを育てなければならないと感じ気が重いとも言っていました。ただ、自分の子どもではない子どもたちと関わることで、私たちも非常に勉強になりますし、何かしてあげようという仲間をたくさんつくって取り組んでいきたいのですが、なかなかここまでできる場所は少ないと思っています。様々なお話を聞きながら、区がこのような場所を増やすサポートをして何かつながりができないかと思いました。待機児童がいるから、場所を増やせばいいのではなく、子どもが安全に生活でき、子どもや保護者のことを大切に思う場所をたくさん増やしてほしいと思います。そのためには私たちも協力したいと思っています。

【会 長】 ありがとうございます。よろしいでしょうか。

それでは、続きまして、次第3「その他」です。参考資料1が机上に配付されています。事務局から説明をお願いします。

【事務局】 (参考資料1について説明)

【会 長】 ありがとうございます。ご質問、ご意見などよろしいでしょうか。

今回が令和3・4年度最後の子ども・子育て会議となります。今期は、委員の皆様、子どもの健やかな成長のために大切だと思うこと、子育てにおいて大切だと思うことの2つのテーマで意見交換を行っていただき、非常に活発に様々なご意見をいただきました。本日、ご質問やご意見を承っていない方から1、2分程度でお話を伺いたいと思います。お願いいたします。

【委 員】 私は障害者団体連合会から参っております。また、社会福祉法人で理事をしており、そこで学童クラブを運営しています。その中に障害児枠もあります。

日本は2014年に国連の権利条約を批准しました。また、それ以前に様々な法が整備されました。これに基づいてインクルーシブ社会、共生社会をつくっていかうという機運が高まっております。全ての人権および基本的自由が普遍的であり、不可分なものであり、相互に依存し、かつ相互に関連を有することとなっております。

この会議では、少子化問題や公園など様々な話が出ました。本当に勉強になります。

した。私の近所にも子どもはいますが、土日休みも夕方も全く声がせず、本当に街の中がシーンとしています。しかし、行ってきますという声だけは聞こえます。このような状態で子どもが育っているのだと思い、ご家族の方も大変な思いをしていると感じます。そういった中で、インクルーシブ社会の実現に向けて、社会的養護という言葉が大切だと思います。公園の問題や、子育ての悩み、先ほど児童相談体制とおっしゃいましたが、そのようなことを社会全体でしっかりと見守る姿勢が大切だと思います。

【会長】 ありがとうございます。お願いします。

【委員】 主任児童委員をしております。民生委員の中でも0歳から18歳までを主に見るのが主任児童委員です。現在、本当に少子化だと思いますが、私の周りには母子家庭で多子家庭が多いです。ステップファミリーという言葉がありますが、私の同僚も、お母さんが母子家庭で子どもがおり、お父さんも父子家庭で子どもがおり、気がついたら子どもがたくさんになって家の中がすごい状態になっている家庭を支援しています。そのため、少子化と思いながら私が支援しているのは概ね多子家庭という状況です。それも、夏休みになったらどう食事をするのか、休みの時はどうしているのかという世帯が多く、主任児童委員みんなで物を集め届けるなどしています。支援をしていて練馬区は非常に広く様々な子どもがいることを実感します。

私は、自分の子どもを2人とも6年間公立の保育園、さらに3年間公立の学童に入れましたが、当時は今ほど支援が整っていませんでした。練馬区は今のほうが本当に充実していると主任児童委員をやっているとしみじみ思います。主任児童委員をしていると、子ども家庭支援センターは何かあったときに相談できる本当に頼りになるところだと個人的に思います。皆様も、心配事や様々なことを何でも相談してみてください。親だけでなく、周りの大人も、親だけが育てるのではないと思ってください。周りの大人も一緒に育てるような練馬区であれば良いと思っています。

皆様のすばらしい意見を聞き、いつも参考になります。ありがとうございます。

【会長】 ありがとうございます。どうぞ。

【委員】 私はこの会議に事業主の立場として出席しています。

前回もお話ししましたが、子どもが増えていく家庭を増やすにはどうすれば良いのかということで、職場を通じて男性が父親になる認識を促進させる方法もあると改めて感じました。

私は、子どもが3人おり、保育園に14年間通いました。独身のときから事業を行ってききましたが、学童クラブなどは事業主という立場が考慮された入園審査ではありませんでした。全て違った制度で、書類を書くのも非常に苦しかったです。私自身は産休も全く無く、初めての子どもを妊娠したときも破水しても仕事をしなければなりません。また出産明けも病院から帰るとすぐに仕事という状態でした。2人目の時も、体調が優れず入院しなさいと言われてもとてもできませんでした。3人目はより大変で、切迫早産でしたが毎日布団の中でノートパソコンを真横にして仕事をし、布団の中からお客さんに電話をして1日5回社員が枕元まで来るような生活をしていました。このような自分の経験は既存の制度にも当てはまらないことを感じました。この会議に何年間か参加をして様々な意見を聞くと、正直発表で

きるのが羨ましいと思ったりもしました。意見が言えて通じる相手がいる会議なのだ、自分の話はどこにもできないと思ったりしました。

【会長】 ありがとうございます。よろしくお願いします。

【委員】 2年間公募委員として参加しました。ありがとうございます。

まず、練馬区の計画や、専門職の方への力の入れようがすごいと思ったのと同時に、住民の力を生かすという点で自分自身も含めてもっと何か行う必要があると強く思いました。振り返って、何があれば良かったかと思うと、偶発性の場よりも必然性の場があれば良いと思いました。にこにこや、子育てのひろば、ぴよぴよ、こどもカフェ、保育園の園庭開放も一通り参加しましたが、必ず毎回同じ人が来るとは限りません。他の自治体で実施しているような、0歳児サークルや1歳児サークルという形で同じ世代の人が集まり、定期的に顔を合わせることでつながれる住民同士の助け合いや支え合いがあってもいいと感じました。

計画中間見直し（素案）に対する意見が20人の28票しかなかったと報告がありましたが、今後は子育てに関わる現場での声を聞くなどの方法にすると変わってくると思います。また、先ほどお話しが出た異年齢が利用する公園というところで、プレーパークは素晴らしい究極の支援だと思います。出張プレーパークという形で幼稚園や保育園などに取り入れていくことや、このような取組を行っている一般社団法人などにより横断的に取り組めればいいと思いました。

2年間区民の目線で物を見せていただき、非常に参考になりました。ありがとうございました。

【会長】 どうもありがとうございました。

すでに本日意見を述べられた委員の皆様、今期最後の会議ということで皆様にお伝えしたいことを1人1分を目途にお話しいただければと思います。

【委員】 私は、この会議に最初から参加しており10年目となります。最初の頃は子どもの育ちの環境やプレーパークのようなものを作るなどの話がありましたが、いつの間にか子預け会議になってしまって非常に残念です。

先ほどから長時間労働や変則時間労働などの話が出ましたが、私どもも全く理解していないわけではなく、そのような現状があることは十分存じています。ただ、それは決して正常なことではないと、もっと子どもたちを豊かに育てようという方向に持って行っていただきたいです。子どもの本当に幸せな育ちを保障することが私どもの仕事です。今、政府は異次元の子育て支援をしようと言っているのです、ぜひそれを行って欲しいと思います。

【会長】 ありがとうございます。

【委員】 この会議は保育で始まり保育で終わると感じました。待機児童についてずっと語られている中での会議だと思いますが、保育の問題を議論するとやはり様々な社会問題が出てきて、その点は十分勉強になりました。本心配られた資料の中で、東京都の児童相談所が今後練馬区の子ども家庭センターと同じ施設内にできるということで非常に良かったと思います。しかし、一時保護所が足りないという現状もあるので、要保護児童がますます増えている中で令和5年度改修などを行う際にその辺りを充実して欲しいと思います。よろしくお願いします。

【会長】 ありがとうございます。それでは、どうぞ。

【委員】 子どもの政策は大人が決めるためどうしても大人の意見に左右されます。子どもは論理的に物を話せないのも、子どもの意見は無いのと同じになると思います。こども家庭庁は、元はこども庁という名称でしたがこども家庭庁に変更され、結局は大人の論理で進められるのだと私は思っています。やはり子育てを考える際には、保護者や家庭の理屈は取りあえず置いておいて、子どもにとって何が一番良いかを考えないと駄目だと思いながら意見を言いました。やはり家庭でのんびり親子で過ごせる時間が1番大切で、それはきっと親にとっても良いはずで、親も子ども家族の時間をゆっくり大事に取れる社会をつくるのが非常に大切だと思います。そのためには、ここまで根を詰めて働かずとも安心して子育ての時間を取れる社会にならなければなりません。私の保育園の保育士でも、長時間働いて遅くまで自分の子どもを預けている人もたくさんいるため、何か歯車がおかしいとも思っています。もちろん経済の発展は大事ですが、子育てをしている人たちを応援してみんなで喜べるシステムを作ることに行政がより力を入れれば少し良くなると思います。

【会長】 ありがとうございます。よろしくお願いします。

【委員】 2年間ありがとうございました。

私は学童クラブの職員とおばあちゃんの2つの立場で意見を言いました。前回会長が述べられた、結婚して親を育てる、親になるための勉強をすることはすごく大事だと思います。今、学童の職員をしておりそこまでしないと子どもは生まれてこないし産んだとしても健全には育たないということを感じています。結婚ではなく結婚したらそうなるということをお話していかなければならないので、そういう場を練馬区にはつくって欲しいと思います。ありがとうございました。

【会長】 どうもありがとうございます。

【委員】 子ども目線で議論をしていた時は、いかに子どもと一緒にいてあげるかという意見が皆様から出ていたと思いますが、日常を目の前にすると皆様がそれぞれの立場で意見を言い、対極的になってしまったと感じています。そこで、仕組みの上で抗い対極になるのではなく、対話を進めていく意識を持ちながら話していかなければならないと認識したところです。

前回会議の直後に、バスの中に子どもを取り残した事件などがあり、保育園を取り上げた番組が多く放送されました。番組は保護者の認識の変容や関係者の共感、問題提起につながる良い機会だと思いい期待して私も見ました。しかし、番組では、個別の園での保育士のふるまいなどばかり取り上げられており、その背景に何があるのかが分からず残念でした。また、個別の園の自助努力の話ばかりで、園の紹介になっていて、まるで事前に申し合わせたような番組になっており残念でした。

もう1つ前回の会議でお話しした公園に行って保護者のお話を聞く取組を実際に行いました。まず驚いたのが、お母さんと子どもで来ている方は平日の午前中にはいませんでした。先ほど委員の方が述べたように、4つ、5つの保育園が場所取りをしていました。そのため、公園の中の非常に狭いスペースで子どもたちがわいわいしているという状態でした。この話をした時に、そうなると思いに余計にお母さんたちが公園に行けなくなるという意見を聞き、なるほどと思いました。

私はこの会議の委員を2期連続で務めました、継続していくことが非常に重要だと思っています。政府の取組でも、日々のニュースの中でもトップニュースとして少子化対策が取り上げられるようになり、注目度も上がってきていると思います。そのため会議もより進化させて、議論も深めていかなければならないと思います。ここで議論を対極化させるのではなく、仕組みの改善に取り組んでいく必要があると思います。また、お父さんが主夫化していくケースはこれからより出てくると思います。それを予測して主夫が孤立化しないような取組が必要だと思っています。

最後に、この2年間で整備がなされ、様々な保育園に入った子どもたちがいると思いますが、これから年齢を重ねていく中で切れ目のない保育支援として10幾つまで見ていく必要があると思います。様々な事件の中で14歳～18歳の子どもが取り上げられるので、そのようにならないように意識していかないといけないと思っています。

区の職員の皆様には、「当たり前」ではなく感謝していかねばならないと思っています。

【会長】 ありがとうございます。それでは、よろしくお願ひいたします。

【委員】 私の任期は第三子の出産直後から始まりました。子育てをする中で、練馬区は子育てしやすい街だということを日々実感しながら過ごしています。例えば、保育園や保育サービスが充実している、妊娠期から育児ヘルパーが産後まで使える、ハイリスクになると利用できる時間が増える、第三子のお祝い金、教育委員会の方々のコミュニケーションが保護者に対して丁寧であるなど様々な子育ての領域で練馬区には親としてもお世話になっています。ここ十数年子育てを様々な自治体で行い、特に練馬区は非常に子育てがしやすい街だと思いました。この場で感謝をお伝えできればと思います。ありがとうございました。

【会長】 ありがとうございます。よろしくお願ひします。

【委員】 手短に3点お話しします。

まず1点目は、子育ての楽しさや、社会の優しさをもっと伝染させたほうがいいと思います。『バスが来ましたよ』という、盲目の職員が小学生の女の子に助けてもらい定年まで勤め上げたという心温まる絵本があります。女の子が卒業した後も次々に小学生の子どもが盲目の職員の手助けをしたという話です。このような子どもの優しさの可能性や子育ての楽しさは無限大で、それらをもっと発信していけば、より子育てしやすい街になり、信頼して子どもを生かせる社会になると思います。

2点目は触れることの大切さです。私の子どもの園の卒園生で今、高校生になっている方の文章を紹介します。「母に、コロナ禍になってから、先生から子どもたちがお帰りのとき、ぎゅっと抱き締めてもらっていないことを聞いてショックを受けました。先生からのぎゅっで私たちは言葉がなくても信用と安心をもらっていました。あしたも元気に幼稚園に来る約束と、何々ちゃんならできるよいつもパワーをもらっていたと思っています。少しずつ以前のように戻っていく園生活に、先生からのぎゅっが当たり前のようにどこでも目にするのができるといいなと思っています」というものです。様々な養護施設や、悲惨な家庭から通っている子どももいますが、先生に抱き締められることで力を得て毎日生きている子どもたちもいる

ということです。触れることは大切で、父を亡くし看取りの時に父に触れると、一緒にキャッチボールをしたことや、遊んだ経験などを全部思い出しました。だから、本当に子どもと触れ合えるときにどんどん触れ合って、そういう記憶を1つでも多く残していきたいと個人的に思っています。

3点目は、練馬区の子ども施策に関わる管理職の方のほとんどが男性です。性別ではないかもしれませんが、女性のほうが自分事として使命感を持って子ども施策に取り組める方が多いと私は思っています。そのようなことに違和感を持てる議員や、首長を私たち有権者がチェックして選ぶことが一番大事だと思うので、そういうことに注意しながら毎日過ごしたいと今思っています。

【会 長】 どうもありがとうございます。それでは、どうぞ。

【委 員】 この会議で私は保護者の立場でお話をしましたが、様々な事業者が子どもを中心に語っていたことで、自分が保護者目線で意見を言っていることを非常に実感しました。子ども中心にたくさんの方々色々な考えで活動してくださっていることが練馬区のすごいところだと感じております。

もう一つ、区が一生懸命活動、計画を考えて、私たち保護者がそれを利用するところに地域の力をもっと使える仕組みづくりがあると良いと思いました。地域団体がたくさんあると思います。こども食堂を行っている団体もありますし、地域で子どもを見てもいいよとおっしゃってくださる大人の方も住んでいるかもしれません。そういう方々がもっと簡単にマッチングできる、参加できる練馬区になればより良い子育てが地域でできていくのではないかと思います。

【会 長】 どうもありがとうございました。皆様から貴重なご意見いただきましたので、副会長からもご意見いただければと思います。よろしくお願いします。

【副 会 長】 2年間を振り返り、非常に多様な意見がこの会議の中で出たと思います。今日が今期最後ですが、まだまだこの議論を続けていかなければならないと思っています。2年間の会議の中で、子どもの健やかな成長のために、子育てにおいてというところを視点にしながら何を大切にしていきたいかを議論してきましたが、まさにどうありたいかという未来を描く議論になったと思います。この議論は答えがまだ出ない段階だと思いますが、とても重要な視点がこの会議の中で出たと思っています。非常に多様な視点や立場からの意見が出たところも非常に良かったと思います。本日も議論に出っていますが、子どもの視点、親の視点、親にも色々な、子どもにも色々なという議論を続けていくことが今後も重要だと思いました。

私は保育の研究者という立場から、子どもたちの保育と質の問題はとても大事にしています。区をあげて待機児童の解消に取り組んできましたが、量を増やすだけでなく質の部分もとても重要であることがこの議論の中で出てきています。また、区も質については様々な取組を行っていると思いますが、この質の中身についての議論を今後はさらに進める必要があると思います。何をもちえて質が良いとするか、この2年間の中でもそのことが語られていたのではないかと思いますし、その議論をさらに続けていくということが必要だと思います。私は保育の研究をずっとしている立場の中で、保育の専門ではない視点からの意見が大変素晴らしかったと思っています。保育の質を多様な視点で語ることが今後重要になると思いました。

最後にそういった意味でも、この会議だけでなく様々なところで子ども、子育てのことを議論し合え、様々な声がたくさん聞ける区になる仕組みができるとより多くの素晴らしい意見やアイデアが生まれるのではないかと感じています。

たくさんいろいろな学びを私もさせていただきました。より皆様と議論を重ねたい思いではありますが、最後に感謝を申し上げておしまいにしたいと思います。ありがとうございました。

【会 長】 副会長、ありがとうございました。

副会長から全体のまとめをいただいたので、私は簡潔に1つだけ申し上げます。

子ども中心ということが皆様からあった中で、子どもの意見表明、環境づくりが今法律にもうたわれ、進められています。子どもの意見というと、言葉のイメージがありますが、表情やしぐさなど声にならないところから表現が始まっていると考えて、それを受け止める感受性をどのように育てるかが子どもの意見表明を受け止める側の大事なことだと思います。それを大人が受け止めながら子ども中心に考えることが大事だということを最後に1つのまとめとしてお話しさせていただければと思いました。

非常に準備が大変な中でしっかりと議論をできて、たくさんの活発な意見をいただいたところでございます。また傍聴を含め、区民の皆様の注目、まなざしの中で非常に意義のある議論ができたということを申し上げまして、最後の総括の言葉にしたいと思います。それでは、以上をもちまして、子ども・子育て会議を閉会します。皆様どうもありがとうございました。